

HEG オーストラリア フィールドワーク

令和6年3月20日(水)～27日(水)

- 1 目的 (1)現地大学や現地高校と連携したアカデミックワークショップ、プレゼンテーション、文化交流等により、生徒の課題研究の進展及び国際意識の向上を図る。
(2)将来、国際的に働いたり、グローバルビジネスの起業を考えたりする際に不可欠な人的ネットワーク構築術を身につける。
- 2 日程 令和6年(2024) 3月20日(水)～27日(水)
- 3 方面 オーストラリアニューサウスウェールズ州シドニー市
- 4 参加者 2年生 15名(男子6名、女子9名) 引率2名
- 5 訪問先 University of Sydney 担当者)Elise Nguyen
Tara Anglican School for Girls Masons, Drive, North Parramatta, NSW
担当者) Kendall Morris
doq® Suite89 Jones Bay Wharf 26-32 Pirrama Road
Pyrmont NSW 2009
担当者) 作野善教

3月20日(水)

- 15:30 羽田空港集合 出発式
18:25 羽田空港出発 日本航空 51 便



3月21日(木)

- 6:20 シドニー空港到着
8:00 シドニー市内半日観光
ボンダイビーチ、ミセスマッコリーズチェアー、セントメアリー大聖堂、オペラハウス
12:00 市内中心部 Myer のフードコートにてランチ
13:30 シドニー大学キャンパスツアー
17:00 ホテルにチェックイン ホテル)Holiday Inn Parramatta
18-40 Anderson St,Parramatta NSW 2150
6:40 にシドニー空港到着後、半日市内観光としてシドニー市内の主な観光名所を回った。

シドニー市内中心部にある Myer 地下 1 階にあるフードコートでランチを取った後、シドニー大学を訪問した。シドニー大学では、大学グッズショップでショッピングを楽しんだ後、2 人の学生アンバサダーの案内で各学部棟や大学寮など、充実したキャンパスツアーを行った。その後、シドニー西部の街 Parramatta に専用車で移動し、ホテルにチェックインした。ディナーは Parramatta 駅前にあるフードコートで思い思いのディナーを食べた。

【生徒の感想】

・レジで注文をするときも、シドニー大学のキャンパスツアーのときも、英語が聞き取れず、自分の英語力はまだまだだと実感しました。また、オーストラリアと日本では気候区分も異なれば、大陸から分離した時期も違うので、当たり前のことではありますが、街路樹などの植物が日本とは全く違って驚きました。何の木なのかはわかりませんが…。地理や生物の授業で学んだことを自分の目で見ることで、知識に厚みが増したように感じた一日でした。

・最初に入国審査で引っかけられないかがとても不安でしたが、しっかりと英語を使って通ることが出来てとても良かったと思います。初めての海外の景色は本当に綺麗で、日本とは全く違う雰囲気がとても興味深かったし、本当に海外に来たんだなということを実感しました。また、シドニー大学のキャンパスツアーの解説や、フードコートでの注文を通して、英語のリスニングテストとは比べ物にならないくらいのスピードの英会話を聞いて自分の英語力の無さを再認識し、さらに勉強に励みたいと思いました。

・シドニー市内観光は様々な場所に訪れて、タイトなスケジュールだったが、どこも素晴らしいかった。シドニー大学はまるでハリーポッターの世界に入ったようで美しかった。また、様々な施設が充実していて良い大学だと思った。

・シドニーの観光名所はもちろん、普通の街並みでもすごく絵になる。360° フォトスポット。意外と寒かった。シドニー大学の寮がレベル高い。数名志望校をシドニー大学に変更しかける者が出る。私も含め。

12:00 市内でランチ(シドニーの中心部にある Myer の地下フードコートにて)



13:30 シドニー大学訪問
現地の学生のガイドでキャンパスツアー





17:00 ホテル着

18:30 ホテル付近のファーストフード店でディナー

3月22日(金)

Tara Anglican School for Girls 訪問

7:45 発のパブリックバスで Tara へ

8:15 Chapel で Samantha 先生とミーティング(担当の Kendala 先生は海外出張のため不在)

Period1 Tara の生徒からウェルカムスピーチ、一高生からの代表スピーチ、一高の学校紹介プレゼンテーション、9 グループに分かれて Tara のスクールツアー

Period2 Tara 8 年生の日本語クラスに参加 自己紹介など

Recess Cafe でラミネーションをいただきブレイクタイム

Period3 Tara10 年生の日本語クラスで 2 グループによる探究プレゼンテーション

Period4 Tara8 年生の日本語クラスに参加。日本のゲームとして百人一首を紹介して楽しむ

Lunch Cafe でサンドイッチやフルーツのランチをいただく。10 年生のバディと交流

Period5 Tara10 年生の日本語クラスに参加。和製英語の正確な表現などをゲーム形式で学ぶ

Period6 Tara11 年生の日本語クラスに参加。自分の趣味等を理由とともに紹介しあう conversation

15:00 Tara を専用車で出発(迎えの自家用車で道路が混雑するため早めに出発)

16:00 Penrith 郊外のミーティングポイントでファームステイのホストファミリーとミーティング

【生徒の感想】

・Tara の皆さんは笑顔で沢山話しかけてくれて緊張はすぐに解けていきましたが、彼女たちの会話に聞き取れない所があったり、質問に上手く答えられなかったりして、自分の英語力は本当にまだまだだと実感しました。それと同時に、もっとスムーズに会話出来たらどんなに楽しいだろうかと思い、もっと英語を勉強しようと思いました。また、坊主めくりは想像以上に盛り上がり、私も叫びすぎて喉が痛くなりました。本校の男子生徒が披露したスリップバックの盛り上がりも最高でした。今回できたTaraの友達との交流を続けられたらいいなと思います。

・一番に感じたことは、生徒がかなり積極的だったということだ。休み時間になった時、多くの生徒の友達が自分たちのところに来て、各々自己紹介をしていって、またその友達が来る・・・などの出来事から、やはり日本とは違うなと感じた。

・日本語の授業があるとは聞いていたが、想像以上に日本語を話せている子も多くいたし、海外で日本語を勉強してくれていることがうれしく感じた。英語でのコミュニケーションは、Tara の生徒たちに話をふってもらって会話することが多くなってしまったけれど、日本のアニメや k-pop など、私たちの身近なことで仲良くなれたり共感できて、息抜きとして楽しんでいることも無駄ではないのだと思った。私はTara で最終発表をしたが、発表中は真剣に興味を持って聞いてもらえてうれしかった。真面目に話を聞きつつ、リアクションをとる姿勢は自分も見習おうと思った。

・プレゼンテーションでは最後の質問タイムであまく答えられなかったのが残念だったが、自分の考えたユーモアで現地の生徒が笑ってくれたとき、ユーモア感覚はどこでも同じなのだ嬉しく感じた。また、Tara の生徒から日本についての質問を受けたとき、もっと日本の文化について知識を持っていればと思った。完全アウェイの状態英語を使って交流するという体験はかけがえのない貴重な経験になった。



一高生の学校紹介プレゼンテーション



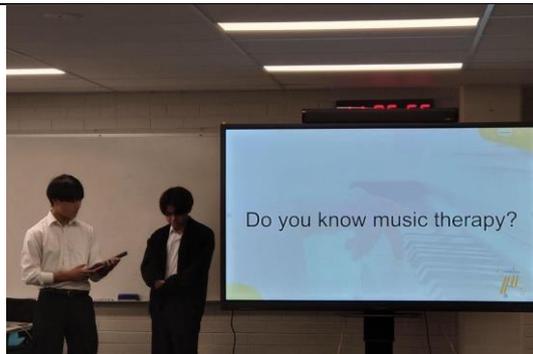
校内ツアー



Tara の 8 年生と日本について英会話



Tara の 8 年生と坊主めぐりにチャレンジ



探究プレゼンテーション



Tara の生徒と集合写真

3月23日(土)

Farm 体験

それぞれのホストファミリーのファームで、貴重なファーム体験を行った。

【生徒の感想】

・海外に訪れたことは何度かあるが、ホテル以外に泊まったのはこれが初めてだったため、朝起きた瞬間に英語が聞こえてくるという環境には衝撃を受けた。その後、ホームステイ先の犬と1時間程度家の敷地内を散歩し、様々な動物の飼育エリアや農園を見学した。自分自身犬と触れ合う経験はあまり無かったが、犬との親睦を深めることができ記憶に残った。その後、ホストファミリーと共にワークショップに参加したのち、カンタス航空で機長を務めていたという親戚の方とホームパーティーを行い、貴重なお話や日本では食べられないような食事を楽しむことが出来、記憶に残る滞在体験となった。

・今までの人生で一番英語を話した日であった。おしゃべり好きなお母さんとの会話を通じて、日本以外の文化（オーストラリアの文化、またお母さんがトルコ出身のためトルコの文化も）や、日本と共通する文化が海外にもあるということも学ぶことができた。会話の中に、普段使っている単語と違う発音のものや知らない単語があったりして戸惑うこともあったが、親切なホストファミリーが教えてくれて良いコミュニケーションをとることができた。ショッピングに行き、ガーデニングをし、キャンドルを作った。ホストファミリーはとても優しく、共に過ごす時間はとても楽しいものであった。

・海外の洗礼を一番受けた日でした。一番衝撃的だったのは髪を洗うのが2週間に一回ということでした。これも大きな文化の違いだなと感じました。また、私たちは、朝現地のローカルマーケットに連れて行っていただきました。ボランティア活動で作られた可愛い小物や、ショッピングモールなどでは手に入れられないようなハンドメイドの商品が多くついついたくさん買ってしまいました。午後は、ファームにいる馬のブラッシングをしました。思っているよりブラッシングは力が必要です。ものすごく疲れます。でも、すごくたのしいし、貴重な経験となりました。また、5歳ほど年上のお姉さんとびっくりするくらいたくさん会話を弾ませることができて嬉しかったです。またオーストラリアに来たら会いに行きたいです。

・どの食事もととてもおいしく、カンガルーの肉や新鮮なエビは絶品だった。また、とてもかわいいアフタヌーンティーをして、その時の会話は楽しかった。お土産で渡した書道や折り紙、お茶を喜んでもらえて嬉しかった。短い間だったが、様々なオーストラリアの文化や生活様式を体験できた。

・意識的にホストファミリーとたくさん話そうとした。聞き取れなかった時に「sorry?」と聞き返すとゆっくりしゃべってくれたり、違う言い回しをしてくれたりすると学んだ。ただし、多用しすぎに注意。ベッドメイキングの仕方や荷物の片付け方など細かいことでも聞きに行くのが大切。





3月24日(日)

- ・ホストファミリーとお別れ
- ・ブルーマウンテンズ国立公園観光
- ・カトゥンバの街散策
- ・シドニー市内ホテル周辺でのディナーとショッピング

9:30 にお世話になったファームのホストファミリーとお別れした。その後、専用車(車内ではファームステイの話で大盛り上がり)でシドニー郊外の代表的な観光地ブルーマウンテンズを訪れた。雄大な景色に感動し、急斜面を駆け下りる乗り物に興奮した。観光後、ブルーマウンテンズの観光拠点の街カトゥンバを散策(13:00~16:00)し、シドニーのような大都市とはまた違ったオーストラリアの地方都市の雰囲気を味わうことができた。その後、シドニー市内に戻り、ホテルにチェックイン(17:30)後、ホテル近辺のワールドスクエアでディナーとショッピングを楽しんだ。

【生徒の感想】

- ・2日間家族のように接して下さったホストファミリーとのお別れは想像していたよりも寂しく、名残惜しかった。これからもお世話になったホストファミリーと連絡をとり続けたいと思う。ブルーマウンテンズでは広大なオーストラリアの自然を一望でき、日本での淡々とした生活から脱却した気分を味わえた気がした。カトゥンバの街には大都市とは違った美しい建物が並んでおり、見て歩くだけでも楽しかった。多くのカフェやレストランがあり、おしゃれな雑貨屋や近くのローカルなスーパーでのショッピングで充実した時間を過ごせた。
- ・ようやくホストファミリーと楽しく会話ができるようになったところでお別れとなってしまう、とても名残惜しく、あと数日いたいと思った。しかし最後に渡した手紙をとても喜び、オーストラリアに再び来た時に寄っていいと言ってもらえ、とても嬉しかった。ホストファミリーとの別れ後はブルーマウンテンズに行き、オーストラリアの雄大な自然を体感した。また最後に訪れたカトゥンバはシドニーとは違い、古き良き街という雰囲気だった。メインストリートは様々なお店がありとても見応えがあったが、建物の間の細い路地もとても良い雰囲気で写真を撮る手が止まらなかった。
- ・ホストファミリーとは、2日間という短い間しか一緒に過ごせなかったが別れる頃には一週間やそれ以上いたような気がするくらい充実した経験ができた。ホストファミリーと別れるのはとても寂しかったが、手紙や折り紙を喜んでくれて自分たちの些細な工夫が人を喜ばせられることを実感した。
- ・ブルーマウンテンズに行き、日常では見られないような素晴らしい光景を見ることができ、とても感動した。昼食に寿司を買って食べたが、アメリカのような日本にない寿司を想像していたが、いろんな人種の人住んでいるオーストラリアだからこそだと思うが、日本とほぼ同じようなものを食べて嬉しかった。カトゥンバは古き良き街並みで、都会のオーストラリアとはまた違った一面を見れた。骨董品や古着屋が多く掘り出し物を探すのが楽しかった。

9:30 ホストファミリーとお別れ

11:00~16:00 ブルーマウンテンズ観光、カトゥンバの街自由散策



スリーシスターズを背景に集合写真



独特な青みがかった壮大な景色



カトゥンバの街



カトゥンバ散策

3月25日(月)

AM doq 訪問、最終プレゼンテーション

PM タロンガ動物園観光

8:30 ホテルを出発。ライトレールのザ・スター駅で降り doq へ。今朝、ジャカルタから帰国した代表の作野様。日本支所の永見様、シドニー本社の下川様にお世話になる。はじめに下川様から、doq のビジネスモデルに関するプレゼンをしていただく。クロスカルチャービジネスという日本とオーストラリアの企業のビジネスをつなぎ、日系企業のオーストラリアでのビジネス進出について様々な角度から提案するのが doq のビジネスモデルとのことであった。続いて4グループによる最終プレゼンテーションを行い、doq の3人の方からご質問やご助言をいただいた。また、プレゼンスキルに関しても個々にお褒めの言葉をいただきつつ、有益なご指摘をいただいた。最後に作野様から総評として、ご自身のご経験を交えながら、やるか、やらないかなら、まずはやってみること、英語力を身につけるためには、まずは英語から逃げられない環境に飛び込むことが早道であることなど、生徒たちにとって目から鱗が落ちるようなご助言をいただき、質疑応答の際には、作野様の説得力のあるお言葉に感動して涙を流す生徒も見られた。有意義かつ濃密な2時間の企業訪問であった。

その後、ライトレールでサーキュラーキーに移動し、昼食休憩。13:20 のフェリーで対岸に渡り、タロンガ動物園観光を行った。

17:00 にサーキュラーキーに戻り解散。フェリーからダーリングハーバー周辺の夜景鑑賞など、シドニーの夕方を楽しんだ。

【生徒の感想】

・doq での発表では、これまでの発表で厳しい意見をいただくことが多かった事もあり緊張していたが、終始穏やかで話しやすい雰囲気だった。作野さんのお話の中で、やるかやらないかという時にやれば成功するということや、将来の事を頭で考えていても答えは出ないため、沢山の経験をするのが良いということが、シンプルで、だからこそ心に響いた。タロンガ動物園では、日本の動物園と比べて広く、柵を設けていない所も多く見られ、より自然に近い状態を見ることができた。

・doq への訪問では、自分はプレゼンをしなかったものの、ビジネスを行う上で求められる要素を多く知ることが出来ました。社長である作野さんは過酷な環境に身を置き、それに順応することで様々な経験を積んでこられたといいます。そんな作野さんの言葉の一つ一つには重みがあり、語学の学習や今後の人生の決定などを見直す大変貴重な機会になりました。特に印象深いのは「やるやらない」の判断が将来に及ぼす影響です。今回の訪問で学んだことを今後の生活に活かしたいと強く思いました。

・doq でのプレゼンは、最後の発表ということもあり、とても緊張した。また、ビジネスの視点からの質問やアドバイスだけでなく、これからの人生で経験するであろうプレゼンで必須になるスキルの伝授もいただき、とても参考になった。最も印象深かったのは、代表の作野さんの言葉で、さまざまなことにチャレンジする大切さや、自らを高めるためにすべきことなどをお話頂いた。タロンガ動物園では、コアラをはじめとするオーストラリア特有の動物の生態を、日本とは比べ物にならない規模で観察する事ができ、有意義な時間となった。夜のダーリングハーバーは、感動するほどの景色で、絶対にもう一度訪れたいと思わせてくれた。この一日を通して得るものがとても多く、有意義な一日となった。

・doq のみなさんは易しい英語でゆっくり話してくれていたように感じた。私はよくリスクやなんやらを考えすぐ行動できないことがあったが、1年間の探究活動やオーストラリアでやってみて初めてわかることがたくさんあると知ったので、作野さんのお話にも首がもげるほど共感して感動した。勇気ももらった。





3月26日(火)

シドニー市内班別1日自由行動

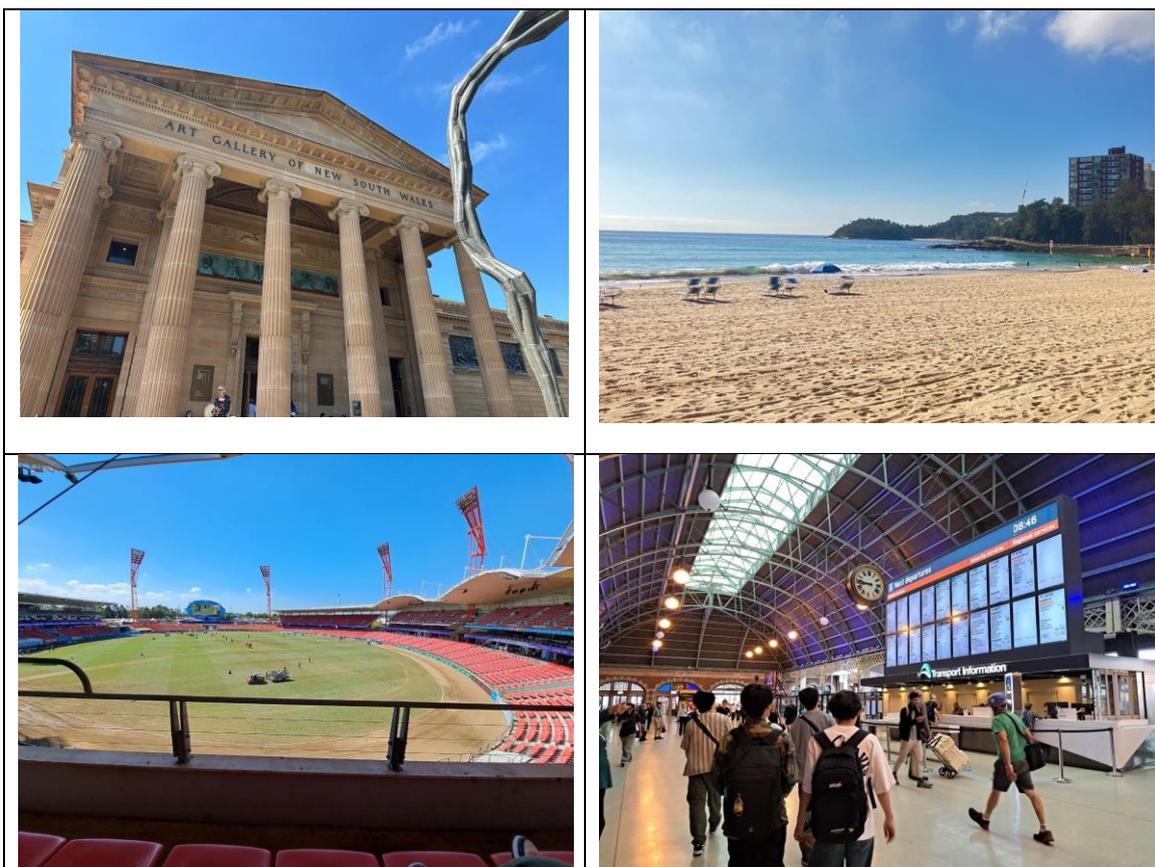
8:30 にホテルロビーに集合し、5 グループに分かれて、シドニー市内班別自由行動を行った。

主な研修地) シドニーオリンピックパークでのロイヤルイースターショー、Parramatta のショッピングセンター (Stockland Merrylands)、ハイドパークバラックス博物館 (囚人博物館)、アンザックメモリアル、サウスウェールズ州立図書館、同美術館、クイーンビクトリアビルディング、シドニー市役所、ブックカフェの Dymocks Sydney、オペラハウス、ハーバーブリッジ (徒歩で渡る)、マンリービーチ 等々

18:00 にホテルに再集合して点呼をとった後ホテル周辺でディナーをとり、20:00 にホテルに戻り帰国の準備をした。

【生徒の感想】

- ・自由行動で私が行ったロイヤルイースターショーでは、オーストラリアの伝統文化や最新のライフスタイルまでさまざまな側面について学ぶことができました。
- ・マンリービーチでは足だけ海に入った。シーンズが少し濡れてしまったが、冷たくて気持ち良かった。写真を撮ったり、少し走ってみたり、砂の城でまた写真を撮ったりとすごく楽しい時間だった。昼食も海をみながら食べた。その後、オーストラリア発のウォーターボトルやステッカーを買った。とても充実した一日だった。
- ・マンリービーチがとてもきれいだった。現地の人たちが絶賛する理由が分かった。また現地の家族連れの様子も見ることができた。ビーチの後、電車に乗って買い物に出かけた。地図が少しづつわかってきて、自由に出かけられるようになり成長を感じた。夜ご飯を買うことには慣れて、現地の人と少し会話することもできた。日本よりも時間の流れがゆっくりと感じた。



3月27日(水)

- 6:00 ホテルのロビーに集合、専用車で空港へ
- 9:15 シドニー空港発 日本航空 52 便
- 16:55 羽田空港着

〈アンケート結果〉

(1) 自分が当初目標にしたことと、その目標への自己達成度(抜粋)

ホストファミリーや現地の高校生との交流を楽しむ	100%
ホストファミリーや現地の高校生との交流を楽しむ	95%
自分からコミュニケーションをとる。五感のフルに活用して全力で楽しむ	80%
現地人と英語でたくさん話す	60%
Tara で友達をたくさんつくる	80%
現地の方(特に Tara の子やホストファミリー)とたくさん話すこと	50%

(2) いまもっとも印象に残っていること。それから学んだこと(抜粋)

- ・Tara に行き自分の英語の能力は完璧だとは思えなかったが、Tara の生徒と話すことで友達になったり Instagram を交換したりできて仲良くなるのに大切なのは話しかけたりする勇気やコミュニケーションへの努力だと実感した。また英語の勉強をするやる気が増したいい経験となった。
- ・ホテルのエレベーターの乗り方がわからず現地の方に教えていただいたり、観光地までの道を私たちが理解しやすいようにゆっくりと説明していただいたり、現地の方々に助けられたことが多かった。ファームステイ先のファミリーや Tara の学生、先生を含め親切でフレンドリーな方々との出会いが大きな財産のひとつになった。新しい環境に刺激を受け、新しい出会いを大切にこれからも生

活していきたいと感じた。

・Tara の高校生など、人々が積極的に話しかけてくるので、自分から話しかけるのは少し少なかったが、たくさんコミュニケーションをとることができた。ただ、もっと話すためには、英語の勉強をしっかりと進めていきたいと感じた。

・今回の全てが新鮮で刺激的な経験だったので一番印象に残っていることを決めるのはとても難しいが、ここでは英会話について書こうと思う。最初は自分の英語に自信もなければ緊張もしているという不安な状態だったが、英語を使わなければいけないという環境のおかげで成長できたと思う。つたない英語でもホストファミリーや Tara の友達、店員さんたちと話せて笑い合えたことが印象に残っている。気持ちと笑顔とゼスチャーが大事。しかし、もっと英語力を上げられるように頑張りたい。

・初めのほうはご飯の注文がうまくできなくて焦った。日本でも難しい時があるため、英語となるとシステムもよくわからず聞くこともできないため、さらに難しかった。だんだん慣れてきて、ゆっくり落ち着けば大丈夫になった。日本と違うのは、会計後に笑顔で「Thank you」と言ってくれる人がほとんどだということ。うれしいなと思った。

・最も印象に残っているのは、あらためて日本の良さや安心感に気づかされたことで、一度外に出てみなければ分からない感じ方や、視点を変えてみることの大切さを学べた。また、現地の高校生やホストファミリーたちのフレンドリーさや優しさが印象に残っている。自分から仲良くなりたいと思う姿勢や、知らないことに対する好奇心は私も見習うべきだと思う。

(3) 今回の FW を通して自分の見方・考え方が変容したと思うこと

・外国に行った時は、英語を恐れず話すということ。しっかり英語を話せるか、オーストラリアに着く前は思っていたが、簡単な英単語でもしっかり伝わったので胸を張って伝えてもいいと思った。

・私は今回のオーストラリアが初めての外国だった。今まで日本しか知らなかったが、オーストラリアの多文化社会や自然を大切にす姿勢、人々のあたたかさに触れて視野が広がったように思うし、それと同時に今まで気づけなかった日本の良さも実感できた。もっと様々な国に行ってみようと思うようになったし、英語でもっと会話したいと思うようになったし、日本のことももっと愛せるようになった。

・必ずしも完璧な英語ではないとコミュニケーションが成り立たないわけではなく、むしろどんどん英語で話していった方が相手も喜んでくれたため、間違いを恐れず積極的にすることが大事だと感じた。

・目標にしていたことの一つであるコミュニケーションについては、今回のプログラムに影響を受けた。オーストラリアで約1週間過ごして、自分の感情や知りたいこと、興味のあることを言葉にして伝えることの大切さを感じた。自分の英語はまだまだだと実感したが、1週間ではどうしようもないので、リアクションや表情でのコミュニケーションも意識した。それでも仲良くなれたり、言いたいことをくみ取ってもらえたりした。他の人とつながることは意外と簡単なのかもしれないと思ったし、他の人に助けられたことが多かったで、自分ができないことは素直に頼ってみるのも必要だと感じた。

・doq でスライドが見やすいと言われ少し自信がついた。将来に関してずっとこれでいいのかと思いつつ、安全な方ばかり考えていたが、少し可能性を広げてみようと思った。

・特に doq のビジネス戦略についてお話を伺った時に、世界を視野に入れたビジネスが面白そうだと感じ、今まで日本国内での仕事を考えていたが、日本人である強みを生かした働き方もあるかもしれないと思った。また、日本とは異なる点も多かったが、思っていたより大きな違いはなかったので、海外に対するイメージやハードルが少し下がった。

(4) 後輩たちに参考になること

〈持ってきてよかったもの〉

サンダル・サングラス・手紙・大袋のお菓子・割り箸・(折り畳み)スリッパ・折りたたみハンガー・ネックピロー・日焼け止め・汗拭きシート・帽子・2L の水・オーストラリア観光の本・お茶などのペットボトル・シャワーキャップ・ぬいぐるみ・カップラーメン

〈持ってきたけど不要だったもの〉

ルーズリーフ、多すぎるお菓子、多すぎる着替え、現金(持って行くとしても少しで良い、カード◎)、勉強道具、水着、耳栓、電子辞書、単語帳

〈持ってくればよかったもの〉

レターセット(ホストファミリーに渡すため)・ドライヤー(ファームステイ時)・サングラス・飲み物を入れるボトル・お菓子・カップラーメン・スリッパ・洗剤・日本のお菓子

〈お金について〉

約 50000 円用意し、約 45000 円使った。
約 80000 円用意し、約 40000 円使った。
約 80000 円用意し、約 37835 円使った。
約 50000 円用意し、約 40000 円使った。
約 100000 円用意し、約 50000 円使った。
約 50000 円用意し、約 30000 円使った。
約 90000 円用意し、約 40000 円使った。

例) 約 50000 円用意し、約 48000 円使った。

* お金について困ったこと

- ・困ったほどではないが、たまにカードを使える店でもカードの種類により使えない場合がある。
- ・割り勘をする時に小銭が足りない時があった。
- ・カードのみのお店や、逆にカードで支払うと追加料金がかかるお店があったので、カードと現金の両方持っているといいと思った。
- ・セントが使いつらい。値段が分かれぬ商品がある。種類が多いので、使う前に整理しておくとうい。おつりと何となくごまかされる可能性がある。
- ・初めはドルやセントの感覚がつかめず、会計でも金額が聞き取れないため、とりあえず紙幣を出しておつりが大量になってしまった。
- ・現地ではカードを持っていれば大して困ることはなかった。現金は使い切れればよかったと思った。

〈生活全般についてのアドバイス〉

- ・手土産として食品用ラップが喜ばれるらしいです。
- ・ホテルのエレベーターは、カードキーをかざさないとボタンを押せません。
- ・ホストファミリーによっては、食事のおかわりなどを勧めてくるので、お腹がいっぱいだったら、無理をしないでやんわり断る。
- ・海外ローミング必須
- ・自由時間に行きたい場所や買いたいもの、お土産は予定を立てておくとうスムーズ
- ・スーツケース内の物の整理は常にしておくとう後々楽になる。
- ・お店の会計はメニューでの値段と違うことが間々ある。
- ・寝不足に注意。
- ・オーストラリアでは飲み物が高価なので、持参した飲み物をマイボトルに入れて外出すると大幅に節約できる。
- ・お土産の説明はしっかりできるようにしておく。
- ・事前に日常的に使うフレーズを学んでおくとうよい。
- ・日本の文化を紹介できるとよい。
- ・海外研修中、運動不足だからといってハードな筋トレをすればらく筋肉痛が治らないので注意。
- ・言いたいことがあるのにとっさにフレーズが出てこない時があるが、その時は忘れないうちに調べてメモに残しておくとう良い。使えるフレーズが増えると自信につながる。

・日本より乾燥しているように感じたので、ハンドクリームとか肌荒れを防ぐものを持っていくと良いかも。ホテルのお風呂の水温調節に苦労した。野菜は意識的に摂らないと不足する気がした。食べ物が高いけどサイズがおおきめ。

(5)プログラムの内容に対する満足度

90%~120%

〈全体を通してのコメント・運営に対する意見〉

- ・日本とは違うオーストラリア独特の文化や交流など、忘れられない良い経験になった。自分の英語力を確かめる機会にもなってすごく満足だった。 120%
- ・1日1日、たくさんのイベントがつまっていてとても充実した時間を過ごすことができた。初めての外国が HEG のプログラムで本当に良かったです。 100%
- ・個人的にはオーストラリア1日目の観光地を巡るといのが、数を減らしてでも1つ1つの時間ももう少し欲しいと思った。 90%
- ・自分たちでやることを決めて自由に行動したり、多くの人と交流したりするプログラムを用意してただけで良かったと強く感じている。オーストラリアでは有名な観光地を一通り見て、ファームステイをして、同学年の人や企業の方と交流して、高校でこのような FW を行わないとできないであろう経験が、今後の自分のためになると感じている。 120%

《探究学習活動を通して得たこと》

この1年間の探究学習活動であなたはどんなことを得ることができましたか？

- ・「難民」をテーマにしたことで、世界での難民の現状、日本の難民受け入れの問題、受け入れ地域での支援など、今までふわっとしか考えてこなかった「難民」について、深く理解することができた。
- ・研究テーマは最初考えていたものとは違うものになったが、変わっていく過程でグループのみんなまで意見を出して、考えて考えて考えて、たくさん相談して、最終的にまとめることができた。この1年間の探究学習で私は多方向から物事を見る力や、納得できるところまで考え抜く力、発想力、グループのみんなや先生、FW 先の方と話すコミュニケーション力、スライドを分かりやすく作る力、大勢の人の前で発表する自信、英語力、そしてかけがえのない友情を得ることができた。本当に参加して良かった。1年間とても楽しかった。
- ・1つの課題について長い時間をかけていくということはもちろん、1年時よりもプレゼンをする機会が多かったため、人に伝わりやすいプレゼン、スライドの作り方を学ぶことができた。
- ・まず、探究学習活動に参加するという、自分にとっては少し勇気がいることをして本当によかった。このことを含め、自分から興味をもって行動すること、考えたことを実際にやってみることで、自分にとってプラスになることがたくさんあると実感することができた。仙台 FW では自分でアポをとって足を運び、自分の興味がある課題を見つけて探究し、資料を作り、オーストラリアという日本と離れた土地で様々なことを交流する。普段の学習に直結することばかりではないけれど、机に向かって問題を解くことだけが勉強ではないと強く感じた。広い視野、主体性をもって生活できるようになりたい。
- ・たいていの場合、新しいことを広めていくためには、ビジネスつまりお金との繋がりが必須であることを知った。また、対象者やなぜそのアイデアがベストなのか深く深く考えていくことが大切だと分かった。・自分たちは専門家への相談が少なかったことが反省点であり、もっと人に意見を聞き、フィードバックを貰うべきだと感じる。・後回は結局自分を苦しめるし、活動の質も下げてしまう。・プレゼンテーションのように人に何かを伝えるときは、自らをナンバーワンのプレゼンターだと思い込んで行くとよい。
- ・去年の活動が思うようにいかずに今年も活動していたが、去年まで得られなかった主体性を学ぶことができた。また、自分のやりたいことに筋道を立てて計画し、他人に発表することで、計画性やプレゼン能力を養うことができた。また、企業や市役所などとのやりとりや意見交換の場を経験することで、大人としてのマナーや振る舞いを勉強することができた。何より英語プレゼンや海外での経験は、英語力だけでなく人間として成長でき、よい機会だった。